

平成 23 年 12 月 2 日

ASET21 第 28 回議事録

日 時 平成 23 年 10 月 21 日

場 所 大阪市立大学文化交流センター 小会議室

参加者 大内 (大阪市立大学), 小笠原 (五洋建設), 川満 (株式会社日建設計シビル), 鬼頭 (大阪市立大学), 佐藤 (JIP テクノサイエンス株式会社), 園田(大阪市立大学名誉教授), 谷平(元 近畿大学教授), 角掛 (大阪市立大学), 麓 (近畿大学), 真鍋(株式会社国際建設技術研究所), 三浦(株式会社横河ブリッジ), 八木 (株式会社富士ピー・エス), 安岡(株式会社梶川土木コンサルタント), 大学院生(9 名)

以上 22 名・50 音順・敬称略

資 料

- 1) 東日本大震災港湾の被害について (小笠原)
- 2) 東日本大震災被災地見学報告 (高井)

議 事

1.記録確認[資料] 配布資料の確認を行った

2.研究報告

- 1)小笠原 東日本大震災での港湾の被害調査についての発表がなされた。調査場所は八戸港, 釜石港, 相馬港, 仙台港であった。各港における被害を調査・分析し、写真や図を用いての解説が行われ、それぞれに関しての被災のメカニズムとそれに対する対策技術の紹介があった。
- 2)奥田 3/11 に発生した東北地方太平洋沖地震による、鹿島港にある鹿島製鉄所内の原料槽やクレーン, コンテナなどの被害状況や、地震発生直後の社員の避難の様子などの報告がなされた。また、千葉・茨城・宮城などの地盤の液状化の様子や、堤防のひび割れの様子、戸建て住宅が傾いた様子や、マンホールの浮き上がりなど、地盤関連の被災状況の報告もなされた。
- 3)高井 3/11 に発生した東北地方太平洋沖地震の被災地を 9/16-18 に見学した現状を 4/10 に大内先生, 角掛先生が行かれた際の写真と比較し報告を行った。主な調査場所は石巻市, 女川町, 気仙沼市, 田老町, 陸前高田市である。杭基礎から抜けて転倒したビルや、落橋し仮橋をかけてある状態、重油による火災跡など地震と津波による多岐に渡る被災状況と半年後も瓦礫が残る状態であることを報告した。
- 4)三浦 ベトナムへの斜張橋技術移転業務における維持管理業務マニュアルについての紹介がなされた。海外において斜張橋の総括的な維持管理業務を遂行するために、点検の制度化や劣化機構と要因等を明確にする必要があること、設計段階から考慮すべき点など、詳細にマニュアル化されたものが紹介された。

文責 猪木, 小谷, 高井, 森本